



TITLE:

京大広報 No. 502

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 502. 京大広報 1996, 502: 47-64

ISSUE DATE:

1996-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209267>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.



# 京大広報

No. 502

1996. 5

## 目次

### 〈大学の動き〉

部局長の交替等……………48

### 〈部局の動き〉

原子炉実験所改組記念講演会・祝賀会及び  
国際シンポジウム……………48

ヘリオトロン核融合研究センター研究成果  
報告会懇談会……………49

大学院エネルギー科学研究科入学式……………49

故浅沼萬里教授経済学部葬……………50

### 〈栄誉〉

作花清夫名誉教授が紫綬褒章を受章……………50

本席 佑教授が恩賜賞・日本学士院賞を、  
渡辺信三教授、竹市雅俊教授が日本学士  
院賞を、川那部浩哉名誉教授が日本学士  
院エジンバラ公賞を受賞……………51

### 〈紹介〉

—京都大学の百年（第18回）—

京大キャンパスと地域文化財……………54

大学院理学研究科人類学講座人類進化論分野……………55

### 〈随想〉

近畿らしさを生かした長期ビジョンづくり  
に参加して 名誉教授 吉川和広……………56

### 〈資料〉

平成8年度入学試験諸統計……………57

〈計報〉……………61

〈日誌〉……………63

### 〈お知らせ〉

平成8年度創立記念行事音楽会の開催……………64



マハレ山塊国立公園のチンパンジー  
—関連記事本文55ページ—

## 大学の動き

### 部局長の交替等

#### 遺伝子実験施設長

本庶 佑大学院医学研究科教授（分子生体統御学講座担当）が4月8日遺伝子実験施設長に再任された。任期は平成10年4月7日までである。

#### 薬学部長

市川 厚薬学部長の任期満了に伴い、その後任として、佐藤公道薬学部教授（薬品作用制御システム専攻分子作用制御学講座担当）が5月1日薬学部長に任命された。任期は平成10年4月30日までである。



佐藤公道教授

## 部局の動き

### 原子炉実験所改組記念講演会・祝賀会及び国際シンポジウム

平成7年4月、研究組織の再編成を行った原子炉実験所では、新たな活動の出発を記念し、平成8年3月18日（月）午後2時30分から、同所附属原子炉応用センターにおいて改組記念講演会を開催した。

講演会では、初めに前田 豊所長、井村裕夫京都大学総長（代理 西川禎一原子エネルギー研究所長）の挨拶があり、林田英樹文部省学術国際局長（代理 清木孝悦研究機関課研究調整官）の来賓祝辞があった。

続いて、伊達宗行日本原子力研究所先端基礎研究センター長が「研究用原子炉の利用とその展望」、名古屋大学工学部仁科浩二郎教授が「原子力教育における原子炉実験所の役割」、さらにオーストリア大学原子力研究所ヘルムート・ラオホ教授が「異なった方式の中性子源の共存協力」と題した特別講演を行った。

その後、会場をホテル関西空港に移して、午後6時からレセプションが開催され、文部省清木研究調整官、広瀬研吉科学技術庁原子力安全局核燃料規制課長、矢吹萬壽大阪府原子炉問題審議会会長、上垣正純熊取町長、岡田東一大阪大学産業科学研究所長及び吉川允二日本原子力研究所理事長の祝辞、丹羽義次京都大学名誉教授の発声による乾杯に続き、なごやかに歓談に入り盛会のうちに終了した。

なお、特別講演会には約150名、レセプションには約200名の学内外研究者や地元関係者等の参加が



あった。

翌19日（火）から21日（木）の3日間、附属原子炉応用センターにおいて、国際シンポジウム「中性子光学とその研究設備における進展」を開催した。

シンポジウムは招待講演、応募講演及びポスターセッションから構成され、海外からアメリカ合衆国をはじめロシア連邦、オーストリア共和国、ドイツ連邦共和国、フランス共和国等13か国約50名、国内から約50名の参加者による活発な討議が行われ、多くの成果を得て盛況裡に終了した。

（原子炉実験所）



## ヘリオトロン核融合研究センター研究成果報告会・懇談会

ヘリオトロン核融合研究センターは、本年度20周年を迎え一応その任務を完了した。このたび新たな方向への転換をめざしその組織を発展的に解消するのを機に3月20日（水）午後3時から、京大会館において「ヘリオトロン核融合研究センター～20年のあゆみ～」として研究成果報告会が開催された。センターは、昭和51年5月、京都大学で創案された我が国独自のプラズマ閉じ込め方式であるヘリオトロン磁場配位を用いた、高温プラズマ特性を実験的に探求するプロジェクト研究の場として、学内共同教育研究施設として設立された。その後、昭和55年に完成した、強磁場ヘリオトロン高温プラズマ実験装置である「ヘリオトロンE」装置を用いた精力的な実験研究を実施し、その研究成果は平成元年に設立された文部省核融合科学研究所での大型ヘリカル装置（LHD）計画発足に大きく寄与した。このLHDの実験研究が開始されることにより、ヘリオトロン核融合研究センターの使命は達成され、今年度からは、センターの部門を全学的な将来計画構想の一つであった大学院エネルギー科学研究科及びエネルギー理工学研究所の教育研究に参画し、更なる進展を図ることとなった。

報告会は、大引得弘センター長の開式の辞に始ま



り、井村裕夫総長、北尾善信文部省学術国際局研究機関課国際プロジェクト官、飯吉厚夫文部省核融合科学研究所長、西川禎一原子エネルギー研究所長の挨拶があった。その後、飯吉核融合科学研究所長が「ヘリオトロン研究をふりかえって」、大引センター長が「ヘリオトロンEの実験結果」、若谷誠宏教授が「理論研究をめぐって」と題する報告を行った。

報告会終了後、懇談会が催され、井村総長、北尾国際プロジェクト官の祝辞の後、上之園親佐名誉教授の発声で乾杯、学内外関係者約150名が和やかに歓談した。

（ヘリオトロン核融合研究センター）

## 大学院エネルギー科学研究科入学式

今年度設置された大学院エネルギー科学研究科の入学式が、4月19日（金）午後1時30分から、名誉教授はじめ来賓の臨席のもとに、工学部大会議室において挙行された。

入学式は、学歌斉唱（京都大学合唱団が協力）に続いて「総長のことば」があり、午後1時50分に終了した。

今年度の入学者数は次のとおりである。



専攻	修士課程			博士（後期）課程		
	入学者数	外国人留学生	社会人	入学者数	外国人留学生	社会人
社会・環境科学専攻	27 人	(1) 人	人	9 人	(2) 人	(7) 人
基礎科学専攻	40			4		(2)
変換科学専攻	19			4		(1)
応用科学専攻	21			5	(1)	(1)
計	107	(1)		22	(3)	(11)

(注) 外国人留学生，社会人は入学者の内数

(大学院エネルギー科学研究科)

## 故浅沼万里教授経済学部葬

本年3月23日逝去された故浅沼万里教授の経済学部葬が経済学部主催により，4月22日（月）午後2

時から5時まで，法経第七教室において執り行われた。

(経済学部)

## 栄誉

### 作花濟夫名誉教授が紫綬褒章を受章

我が国学術の向上発展のため顕著な功績を挙げたことにより，作花濟夫名誉教授が，平成8年4月29日に，紫綬褒章を受章された。

以下に同氏の略歴，業績等を紹介する。



作花濟夫名誉教授は，昭和28年京都大学工学部工業化学科を卒業後，同年京都大学助手，同38年同助教授を経て，同47年三重大大学教授に昇任し，同58年京都大学化学研究所窯業化学研究部門（平成4年から無機素材化学研究部門に組織変更）担当の教授に配置換となった。

その間，昭和40～43年には米国レンセラー工科大学で博士研究員，平成2～4年には京都大学化学

研究所長を務めた。平成6年，退官と同時に京都大学名誉教授の称号を授与され，同年より福井工業大学教授（客員）となり，現在に至っている。

同名誉教授の研究分野は無機工業化学で，「機能性無機ガラスの構造，物性ならびに新合成法」を主要な研究課題とした。その中で特筆すべきは，ゾル-ゲル法による機能性無機材料の新しい低温合成を開発したことである。また，その他にも無機工業化学の分野における高度で独創的な研究を数多く行いその基礎を築くとともに，大きな成果を挙げた。その研究成果は，約300篇の研究論文および100篇余の総説として国内外の専門誌ならびに著書として公表されており，中でも『ガラスハンドブック』（昭和50年），『ガラス非晶質の科学』（昭和58年），『ゾル-ゲル法の科学』（昭和63年）は当該分野で国際的

にも高い評価を得ている。これらの功績により、昭和59年に「ガラス科学特にゾル-ゲル法の研究」で日本人として初めて米国セラミックス学会ガラス部会 G.W. Morey 賞、昭和63年に「機能性無機ガラス

の構造、物性ならびに新合成法に関する研究」で日本化学会学会賞を受賞された。

以上のような同名誉教授の輝かしい業績を考えると、このたびの受賞は誠に喜ばしい。

(化学研究所)

## 本庶 佑教授が恩賜賞・日本学士院賞を、渡辺信三教授、竹市雅俊教授が日本学士院賞を、川那部浩哉名誉教授が日本学士院エジンバラ公賞を受賞

このたび、本庶 佑教授が恩賜賞・日本学士院賞を、渡辺信三教授、竹市雅俊教授が日本学士院賞を、川那部浩哉名誉教授が日本学士院エジンバラ公賞を、それぞれ受賞されることになった。授賞式は、6月上旬、日本学士院で行われる予定である。

以下に各氏の略歴、業績等を紹介する。



本庶 佑教授は、昭和41年京都大学医学部を卒業、昭和46年本学大学院医学研究科博士課程を終え、直ちに米国に留学し、カーネギー研究所発生学部門および米国国立衛生研究所 (NIH) におけるポストドクト

ラルフェローを経て昭和54年東京大学医学部栄養学教室助手に採用され、昭和59年大阪大学医学部遺伝学講座教授となった。さらに、昭和63年京都大学医学部医化学教室第一講座教授、平成7年同大学院医学研究科教授となり現在に至っている。

同教授の今回の受賞の対象となったのは「抗体クラススイッチ制御に関する研究」である。Bリンパ球は抗体刺激によって、始めはIgMと呼ばれる初期抗体のみを作る。その後、B細胞が分化して、免疫の中心となるIgGや、インフルエンザ免疫のIgA、アレルギーのIgEなど、異なった構造や機能をもつ9種類の抗体を作る夫々の細胞に分かれる。同教授の研究はこのときにおこる遺伝子の組替えや、分化のメカニズムを明らかにした独創性の高い研究である。

まず第一に、1978年、H鎖定常部領域遺伝子が抗体のクラススイッチと連動して欠失することを発見し、これに基づきクラススイッチ遺伝子欠失モデルを提唱し、その証明を行った。この発見は高等生物の分化過程における遺伝子の欠失として初めて報告されたものである。第二に、遺伝子の欠失パターン

の解析から抗体H鎖定常部遺伝子群の配列順番を推測し、その後マウス抗体H鎖遺伝子座DNAを単離し、予想の通りであることを証明した。第三に、1986年、微量物質の遺伝子を単離する独自の方法を開発して抗体のクラススイッチを制御する増殖因子IL-4およびIL-5の遺伝子を単離し、その構造と機能を明らかにした。第四には、Bリンパ球が抗原刺激を受けたとき、クラススイッチへ至る活性化と、細胞死へ至る過程との分別制御を行う分子機構の解明を行った。第五に、1994年、抗体産生細胞の分化制御の詳細な過程を解明するために、胚性幹細胞からBリンパ球への*in vitro*における分化誘導系を確立した。

以上、同教授の研究はBリンパ球が抗原に出会って様々なクラスの抗体を産生するに至る過程の全体像を明らかにするとともに、その中で基本的に重要な段階の分子制御機構の解明を行い、免疫学に貢献したのみならず、その成果は遺伝学、発生学、腫瘍学の分野においても重大な影響を与えた。また我が国の分子生物学の発展の端緒を切り開いた研究であり、高く評価されている。

これら一連の研究に対して、昭和57年朝日賞、昭和59年日本遺伝学会木原賞、昭和63年武田医学賞、平成4年ベーリング北里賞、平成6年上原賞など多数の賞が授与された。

以上のような同教授の輝かしい業績を考えると、このたびの受賞は誠に喜ばしい。

(大学院医学研究科)





渡辺信三教授は、昭和33年京都大学理学部数学科を卒業、昭和35年本学大学院理学研究科修士課程修了後、同博士課程に進学、昭和36年同課程を退学後、直ちに京都大学理学部助手に採用され、昭和37年同教養部講師、昭和40年同理学部助教授を経て、昭和49年同教授、平成7年同大学院理学研究科教授となり、現在に至っている。

同教授の今回の受賞の対象となった業績は「確率解析の研究」である。同教授は、これまで一貫して確率過程に係わる問題を、基礎的なものから応用的なものまで、幅広い観点で精力的に研究を続けられてきた。

初期の研究には、分枝過程の構成およびその連続近似としての測度に値を取る確率過程の提唱、excursionを用いての境界条件をもつ確率過程の構成、一次元拡散過程の研究など多岐にわたるが、中でも特に重要なものはマルチンゲールに基づく確率積分の理論である。これは既に伊藤 清氏（京都大学名誉教授）によってブラウン運動による確率積分が提唱されていたが、これをマルチンゲールの枠組みで一般化したもので、理論の柔軟性と応用の広さをもたらし、以後の確率解析の発展の重要な契機となった。

これらの研究はそのどれを取っても世界的に高く評価されているが、同教授の業績として第一に挙げべきはウィナー空間上の確率解析である。ウィナー空間においては Ornstein-Uhlenbeck 作用素による解析を P. Malliavin が提唱していた。これに対し同教授は、無限次元空間であるウィナー空間上で、ソボレフ空間の枠組みを用いることにより、有限次元と同様自由に解析が行えることを明らかにした。これはウィナー空間上での微積分とも言うべき基本的なものである。さらにウィナー空間での関数概念を一般化した超関数の理論を展開、有限次元の超関数との合成の理論、超関数の漸近展開の理論などを次々と発表、さらに熱方程式の基本解の準楕円性の問題、基本解の漸近展開などにこれらの理論を適応し、大きな成果を挙げた。こうした成果の上に、指数定理に対する新しい証明を与えることにも成功し、世界的な注目を集めた。それ以後も、分数ソボレフ空間、基本解の差分近似などの研究を進展させている。現在の確率解析研究の隆盛は、同教授のこうした先駆的な仕事に端を発していると言っても過言ではない。これまでに平成元年日本数学会秋季賞を受賞している。

以上のような同教授の輝かしい業績を考えると、このたびの受賞は誠に喜ばしい。

（大学院理学研究科）



竹市雅俊教授は、昭和41年名古屋大学理学部生物学科を卒業、同43年同大学院理学研究科修士課程修了後、同博士課程に進学、昭和44年同博士課程を退学、直ちに京都大学理学部生物物理学科に助手として採用された。同53年助教授、同61年教授に昇任、平成4年から岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所制御機構研究系教授を併任、同5年から本学理学部附属分子発生生物学研究センター長、同7年大学院理学研究科教授となり、現在に至っている。

同教授の今回の受賞の対象となったのは、「細胞接着分子カドヘリンの発見とその機能に関する研究」である。同教授は多細胞生物において細胞を結び付けている細胞表面の蛋白質を世界に先駆けて発見し、カドヘリンと命名した。以後一貫してカドヘリンを軸とした発生生物学、細胞生物学の分野で大きな業績をあげている。多細胞生物では受精卵から発生・分化が進むにつれて色々な組織、器官が形成される。このときある組織の細胞は他の組織の細胞とは接着活性が異なり、試験管内で混ぜ合わせた場合混じり合わない。同教授は、この現象は異なった組織では異なるカドヘリンが発現されていることに

よって起きることを証明した。さらにマウスやカエルの発生時に特定のカドヘリンの発現を乱すと組織分化、器官の形態形成に異常をきたすことも示し、多細胞生物体の形態形成には秩序だったカドヘリンの発現が必須であることを明らかにした。また、ある種の癌細胞ではカドヘリンもしくはその付随蛋白質の機能が失われており、それが悪性化と連関していることを示唆する結果も示し、癌の基礎医学にも大きく貢献した。最近では、脳の形成過程において、特定の神経核や領域が特定のカドヘリンを発現していることを発見し、神経回路網の構築にカドヘリンが重要な働きをしている可能性を指摘して世界

の注目をあつめている。

このように同教授は、カドヘリンの発見からその機能解析まで常に世界をリードする研究を発表し続けている。

これら一連の研究に対し、平成元年塚原伸晃賞、同4年中日文化賞、同5年大阪科学賞、同6年朝日賞、同7年高松宮妃癌研究基金学術賞、同8年上原賞が授与された。

以上のような同教授の輝かしい業績を考えると、このたびの受賞は誠に喜ばしい。

(大学院理学研究科)



川那部浩哉名誉教授は、昭和30年京都大学理学部動物学科を卒業し、同35年理学部助手、同36年講師、同44年助教授を経て、同52年教授になり、平成5年まで動物生態学講座を担当した。平成3年から新設の生態学

研究センター長を併任し、同5年同センター教授、センター長を経て、同8年停年退官し、名誉教授の称号を受けられた。この間、評議員を歴任し、本学の管理運営に尽力され、また学界においては国際生態学会 (INTECOL) の副会長、収入役などを歴任し、現在は、日本生態学会会長、国際理論応用陸生物学会 (SIL) 日本代表、国際生物科学連合などによる国際生物多様性研究組織 (DIVERSITAS) 委員、同西太平洋・アジア地域ネットワーク (DIWPA) 委員長を務めている。

同名誉教授の専門分野は動物生態学で、アユの社会構造と個体群変動に関する研究はよく知られている。これはアユが集団の密度によって、「なわばり」から「群れ」まで社会構造を変え、またそれがアユの成長と個体数変動に影響することを示したもので、動物社会学と個体群生態学を統一的に捉えることに成功した業績として、世界ではじめてのものである。これらの研究を基礎として完成させたアユの放流基準密度は、日本全国で広く用いられている。

続いて河川の群集生態学的研究を行ない、淡水魚の「食いわけ」や「すみわけ」といった競争的共存が種間の可塑的な関係によって生じることを明らかにした。1970年代から、アフリカのタンガニイカ湖において生物多様性の維持機構の国際共同研究を推進し、似た資源を要求する魚類の間に協調関係が存在することを明らかにし、従来の生態学が基本的原理としてきた「競争的排除」法則に代わるものとして、「競争的協同」法則を打ち立てた。

淡水魚類における生物多様性保全の基礎的研究に関する業績と国際的な学術的発展へのリーダーシップが評価された。日本学士院エジンバラ公賞は、自然保護や種の保存に関する研究領域で特に顕著な業績に対して隔年に贈られるものであり、川那部名誉教授の輝かしい業績を考えると、このたびの受賞は誠に喜ばしい。

(生態学研究センター)



## 紹介

—京都大学の百年（第18回）—

## 京大キャンパスと地域文化財

1994年12月、タイのプーケットで開かれた世界遺産委員会において、「古都京都の文化財」が世界遺産条約（「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」）にもとづく世界文化遺産として認められ、世界遺産リストに登録されたことは、まだ記憶に新しいところであろう。「古都京都の文化財」とは、京都・宇治・大津市にある17箇所の社寺や城などからなっている。煩をいとわず列举すると、京都市の賀茂別雷神社（上賀茂神社）・賀茂御祖神社（下鴨神社）・教王護国寺（東寺）・醍醐寺・仁和寺・高山寺・西芳寺・天竜寺・鹿苑寺（金閣寺）・慈照寺（銀閣寺）・竜安寺・清水寺・西本願寺・二条城の14箇所、宇治市の平等院、宇治上神社、大津市の延暦寺である。

これはいずれも、「千年にわたり、我が国の都であった古都京都において、歴史上・芸術上価値が高く、日本の文化を代表するとくに重要な文化財として文化財保護法により指定されている国宝建造物または特別名勝庭園を有し、かつ、周辺の風致景観を含めた保護状況にも優れ」というのが推薦理由であった。「古都京都の文化財」は、ほとんどの人が知っている有名な寺社ばかりであり、世界遺産になったことも不思議ではない。

世界遺産は、「国境や民族の違いを越えた人類全体にとって、極めて貴重でかけがえのない価値を持つ」とされる。そうした「古都京都の文化財」の存在は、歴史文化都市・京都の未来のありかたに大きな方向付けを与えるものであり、京都・宇治・大津などの都市圏の将来構想を考えるうえで大きな意味をもつことになろう。

ところで、京大キャンパスの近くでは、慈照寺と賀茂御祖神社が世界遺産リストに登録されているが、この地域にはほかにも自然や歴史・文化遺産など、数多くの歴史文化資源が集積しているといっていよい。

たとえば、吉田山である。日ごろ目にすることが多く、身近な存在である吉田山は、文化遺産と自然遺産の二つの価値をもつ「複合遺産」ということができる。吉田山（古くは神楽岡）は、船岡や双ヶ岡とともに平安京の建都に際して重大な意味をになっ

ていた。吉田山は、同じく平安京の北極大路（一条大路）の東西延長上にある双ヶ岡や、平安京朱雀大路の真北に位置する船岡山（古くは船岡）とともに、「平安京の北辺を守衛する形態」をとっていた。この三山はまた、「香具山は 畝火雄々しと 耳梨と 相あらそひき 神代より」（『万葉集』巻1-13）と詠まれた三神山、いわゆる大和三山（香久山・畝傍山・耳成山）と同じ歴史的・文化的意味をもった「平安京三山」であつたらしい。つまり吉田山は、平安京の地の「鎮め」の山であり、神仙思想にいうところの三神山の一つと考えられるのである。

この吉田山の東南の地には、国の重要文化財に指定されている吉田神社斎場所太元宮がたっている。八角円堂に草葺き、入母屋造の屋根をのせ、棟の中央に露盤宝珠をあげた、きわめてめずらしい姿をもっている。江戸時代初期、慶長6年（1601）再建の建築である。また北方の地には春日社があり、江戸時代前期、慶安元年（1648）修造の春日造本殿四棟が並立している。吉田山は、自然と歴史と文化と宗教とが渾然一体となっているのである。

また、キャンパスの北に広大な伽藍を構える百万遍知恩寺も、すぐれた歴史環境である。良く整備された境内には本堂をはじめ多くの堂が整然と配置されており、そのうち本堂と釈迦堂は京都府の文化財に指定されている。府の指定とはいっても、京都は仏教各派の本山が集中する特別の都市であり、そのため国の重要文化財建造物もたいへん多いからなのであり、百万遍の本堂は、国指定の重要文化財に匹敵する価値をもっている。

キャンパスの中では、国の文化財は、近代の有名な庭師である小川治兵衛が造った清風荘の庭が名勝に指定されているだけであり、建造物は一つとしてない。百年におよぶ歴史をもつ大学のキャンパスであることを思えば、実に残念なことというほかない。しかしながら、京都大学として保存を定めた歴史的建築物が、明治25年（1892）の本部正門など17棟ある。今後、これらの価値がいっそう広く認知されてゆくことを期待したい。

（百年史編集委員会 高橋康夫）

## 大学院理学研究科人類学講座人類進化論分野

人類学とは、一口にいえば、自然における人類の位置を明らかにすることである。自然人類学分野が人類の進化と変異を、化石や現代人の形態面から研究するのに対し、人類進化論分野はヒトの行動、とくに社会行動の進化を研究対象としている。

従来、東京大学理学部人類学教室が明治以来伝統的にホモ・サピエンスの変異と進化、とくに日本人の起源論を中心テーマとしてきたのに対し、京大の人類学は「ホミニゼーション」と呼ばれる過程、つまりサルからヒトへの進化を中心テーマとしてきた。われわれが、例えば、「ノルウェー人の起源」にあまり興味を抱かないのと同様、外国人は「日本人の起源」にそれほど関心をもちないであろう。しかし、サルからヒトへどのように進化したか、サルとヒトはどこが違うかは、人間誰にとっても興味のつきないテーマであろう。

ヒトと動物の違いなど、とっくの昔にわかっているはずだと考えておられる方も多いだろう。実は、そうではない。ヒトと他の霊長類、なかでもチンパンジーとの驚くべき類似性がわかってきたのはこの30年のことであり、現在も常識がくつがえされつつある。このテーマを追求するため、ヒト以外の霊長類や狩猟採集民などの未開民を野外で観察している。

チンパンジーは、主としてタンザニアのマハレ山塊国立公園で30年にわたる長期研究がおこなわれている。ここでの最新のテーマは、ヒトの社会行動の最大の特徴である協力、相互利他行動や互酬性の進化である。私たちが他人を援助するとき、意識的にしろ無意識的にしろ、多くの場合、その見返りを期待しているであろう。私たちは、誰にどういう援助をしたか、誰からどんな援助を受けたかをことごとくに覚えているだけでなく、それを文字に記録したりする。こういう協力形態があるからこそ、ヒトは血縁集団を越えた巨大な村落や都市を形成しえたといえる。それでは、ヒト以外の霊長類ではどうだろうか？

かつて、ヒビやチスイコウモリが互酬的に行動するといわれたが、くわしい研究の結果、そのように解釈する必要はないことがわかった。今のところ、

お返しという観点から多くの行動を説明できそうなのはチンパンジーだけである。チンパンジーは、肉の分配、交尾、毛づくろい、闘争の援助などを交換しているという証拠があがり始めている。しかも、マイナスのお返し、つまり「目には目を、歯には歯を」ということもある。そして、恨みは長い間、抱き続けられるようだ。挨拶をほとんどしなかった嫌われ者の若い大人の雄が、第一位の雄や大人の雌を含む多数のメンバーの集団リンチを受けた。その一年後、この雄はまた集団リンチを受けたが、攻撃したメンバーは前回とほとんど同じであった。

コンゴ北西部の人跡もまれな地域には、ゴリラとチンパンジーが同所的に棲息しているところがある。若い人たちが数年前に開拓したフィールドである。ここのゴリラとチンパンジーは、いずれも果実を主食としながらも、前者はより硬いもの、後者は肉を含むより柔らかい物を食べている。同じ木で両者が採食することもある。百万年以上前に、アフリカにはアウストラロピテクス属の二種の人類が住んでいたが、一方はゴリラのようにがっしりとした体格で、硬い物を食べ、もう一方は華奢で比較的柔らかいものを食べていたらしい。しかし、両者の関係は謎のままである。コンゴでの野外研究は、この二種の間の生態学的関係を推測する手がかりを与える」と期待される。

コンゴの熱帯林で狩猟採集民を研究している学生がいるし、ケニアの草原で遊牧民を研究している学生がいる。ソロモン諸島でイルカ鯨をめぐり交換を調べた学生もいる。ホモ・サピエンスの歴史の90%以上、ホモ属の歴史の99%以上は狩猟採集生活であった。それゆえ、狩猟採集民の研究は、本研究室の主題の一つである。遊牧民や農耕民の研究は、ヒトの社会行動の変異や融通性を知るために必要である。しかし、インタビューや質問紙法のような言語を用いる人文・社会学的方法でなく、直接、人々を追跡し、観察するという方法を第一とするところに、理学部でヒトの行動研究をおこなう意義がある。そこでは、交換や贈与、分配の原初形態はなにか、という問題がもっともホットな話題である。

(大学院理学研究科教授 西田利貞)





## 資料

## 平成8年度入学試験諸統計

## 1. 募集人員、志願者数、合格者数、入学者数、合格者最高点・最低点（総点）等調

学 部 ・ 日 程		募集人員	第1段階 選 抜 合格者数	受験者数	合格者数	入学者数	満 点	総 点	
								最 高 点	最 低 点
総 合 人間学部	前期 文系	55人	255人	249人	57人	134人	800点	621.66点	518 点
	前期 理系	55	266	259	56		800	602.25	498.25
	後期	20	351	325	21		800	520.33	458.99
文 学 部	前期	190	588	585	193	223	700	556.41	456.58
	後期	30	464	280	32		700	500	457.75
教育学部	前期	40	172	159	44	64	800	605.83	530.24
	後期	20	147	140	20		1,000	731.32	586.25
法 学 部	前期	340	1,005	1,005	344	390	750	597.5	487.5
	後期	40	578	494	46		500	413.25	369.25
経済学部	前期 一般	160	581	581	160	234	800	654	530.5
	前期 論文	50	342	250	50		1,050	643.5	461.25
	後期	20	520	375	24		950	545.35	450.1
理 学 部	前期	294	961	944	295	326	650	560	359
	後期	32	1,264	1,244	32		400	339	257
医 学 部	前期	90	476	435	93	102	1,250	1,040	880.5
	後期	10	407	228	10		1,250	928	912.75
薬 学 部	前期	70	186	186	72	83	950	727.08	578.16
	後期	10	153	153	11		950	718.87	604.66
工 学 部	前期	940	2,646	2,640	940	1,050	1,000	833.5	561.08
	後期	110	1,431	1,426	116		1,100	889.75	721.5
農 学 部	前期	252	736	733	259	320	1,050	753.58	627.83
	後期	63	762	761	64		810	601.63	489.73
小 計	前期	2,536	8,214	8,026	2,563				
	後期	355	6,077	5,426	376				
合 計		2,891	14,291	13,452	2,939	2,926			

(備考) 1) 合格者数には追加合格者を含む。

2) 前期は3月8日、後期は3月23日の合格発表時のものである。

3) 法学部・経済学部の外国学校出身者のための選考を除く。

〔外国学校出身者のための選考の実施結果（外数）〕

学 部	募集人員	志願者数	第1段階 選 抜 合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
法 学 部	20人	51人	39人	32人	18人	17人
経 済 学 部	10	56	29	26	13	7

〈工学部・農学部学科別内訳〉

学部(学科)・日程		募集人員	志願者数	第1段階 選抜 合格者数	受験者数	合格者数	入学者数	満点	総点	
									最高点	最低点
工 学 部	前 期	940人	2,646人	2,640人	2,611人	940人	1,050人	1,000点	833.5点	561.08点
	後 期	110	1,431	1,426	732	116		1,100	889.75	721.5
土 木 系 学 科	前	112	315	315		112	126		710.58	569.66
	後	13	164	164		14			807.5	751.25
衛 生 工 学 科	前	40	116	114		40	45		779.75	581.41
	後	5	51	51		7			820.25	727.5
資 源 工 学 科	前	36	142	141		36	40		660.25	561.08
	後	4	48	48		4			799.25	721.5
建 築 系 学 科	前	85	240	239		85	95		791.5	639.33
	後	10	178	176		10			824	802
物 理 工 学 科	前	232	660	659		232	259		833.5	636.25
	後	28	351	350		30			889.75	768.75
電 気 電 子 工 学 科	前	126	318	318		126	140		788.83	626.58
	後	14	201	201		15			835.5	767
情 報 学 科	前	90	253	252		90	101		792	645.66
	後	11	129	128		11			838.75	758.75
工 業 化 学 科	前	219	602	602		219	244		762.41	593.66
	後	25	309	308		25			869.75	750.75
農 学 部	前 期	252	736	733	721	259	320	1,050	753.58	627.83
	後 期	63	762	761	460	64		810	601.63	489.73
生 物 生 産 科 学 科		104	(合格者数) 107 (前期 85名 後期 22名)				104			
生 物 機 能 科 学 科		125	128 (前期 103名 後期 25名)				128			
生 産 環 境 科 学 科		86	88 (前期 71名 後期 17名)				88			

## 2. 志願者・入学者 出身高校所在都道府県別調

上段……志願者数  
下段……入学者数

学部 都道府県		総合 学舎 間	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農	計	学部 都道府県	総合 学舎 間	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農	計		
北海道		152	135	1	196	102	6010	16	41	4210	185	19841	近畿	三重	133	114	51	208	216	396	112	103	5215	165	19853	
青森			72		2	51	91	11	1	31	31	314		滋賀	151	212	121	307	322	307	71	101	9326	346	28454	
岩手			72	1	2		42	21		12	21	194		京都	7311	12325	279	18550	21441	13920	10321	4715	504121	18935	1,604348	
宮城		81	41	21	82	102	152		12	101	42	6211		大阪	11023	15740	6515	33781	28752	27037	1499	5814	865234	29763	2,595568	
秋田		22	22	33	31	52		2		3		21		兵庫	7612	8318	234	17153	15539	18235	13922	349	446129	16943	1,478364	
山形		21	32	41	2		216	2		61		4011	畿	奈良	458	398	165	9228	8618	9217	479	174	34789	6612	847198	
福島		63	143	2	33	321	83			132	42	7411		和歌山	9	216	95	186	154	275	82	31	4211	257	17747	
茨城		121	142	1	82	183	333	10	2	398	203	15722		中	鳥取	41	51	3	122	21	52	32	63	176	6	6317
栃木		71	91	3	123	63	91	61	2	92	72	7014			島根	51	115		51	51	62	62	42	216	72	7020
群馬		81	92	6	113	84	174	16		292	123	11615			岡山	152	204	2	3810	201	3511	71	918	5918	317	23654
埼玉		151	122	4	91	232	752	91	4	608	233	23420	国		広島	193	198	73	4613	184	6910	194	91	8328	224	31178
千葉		304	293	1	185	264	744	131	12	6711	365	30637			山口	2	52		112	63	212	63	39	389	62	9820
東京		10914	7613	282	768	12515	26736	767	214	19732	9112	1,066143		四	徳島	42	42	43	83	23	122	121	118	185	165	8118
神奈川		406	335	4	399	3112	1162	294	4	10524	5970	46070			香川	152	163	4	233	292	315	122	72	4915	143	20035
新潟		93	82	3	102	51	202	4	3	144	131	8916			国	愛媛	72	153	1	92	253	175	181	51	4411	185
富山		61	156	3	51	83	173	3	2	155	41	7819	高知			4	51	31	104	82	142	41		152	114	7417
石川		71	11	4	185	51	325	6		4616	123	14131	九州			福岡	323	488	145	5615	414	7310	133	51	11937	345
福井		429	61	5	146	193	163	41	52	2912	834	13334		佐賀		72	3	2	16	41	151	21	31	245	73	8313
山梨		23			31	21	131	5		71	53	403		長崎		41	51	6	151	3	114	33	31	145	122	7615
長野		52	102	5	61	51	251	7	1	3110	1016	10516		熊本	62	134	11	173	113	133	12	24	144	520	8320	
岐阜		102	152	51	1																					

(備考) 1) 高等専門学校出身者は、高等専門学校の所在都道府県に含む。

2) 外国学校出身者のための選考を除く。

合計		872134	1,052223	31964	1,583390	1,443234	2,225326	883102	33983	4,0771,050	1,498320	14,2912,926
----	--	--------	----------	-------	----------	----------	----------	--------	-------	------------	----------	-------------



## 3. 志願者・入学者 入学資格取得年別調

検…入学資格検定合格者、専…高等専門学校出身者、他…高校、高専、検定以外の者

学 部	志 願 者						入 学 者					
	総 数	現 役 8.3卒	浪 7.3卒	6.3卒	5.3卒	4.3以前卒	総 数	現 役 8.3卒	浪 7.3卒	6.3卒	5.3卒	4.3以前卒
総合人間 学 部	872	477	270	61	13	51	134	67	54	10	2	1
	検 15	検 4	検 3	検 2	検 2	検 4						
		54.7%		45.3%				50.0%		50.0%		
文 学 部	1,052	609	323	72	22	26	223	122	87	11	3	
	検 8	検 1	検 2	検 1	検 2	検 2						
		57.9%		42.1%				54.7%		45.3%		
教育学部	319	173	110	20	2	14	64	36	23	3		2
	検 5	検 4	検 1									
		54.2%		45.8%				56.3%		43.7%		
法 学 部	1,583	933	474	87	23	66	390	199	165	18	2	6
	検 20	検 1	検 3	検 3	検 3	検 10						
		58.9%		41.1%				51.0%		49.0%		
経済学部	1,443	716	504	129	35	59	234	104	107	15	1	7
	検 14	検 4	検 6	検 1	検 1	検 2						
		49.6%		50.4%				44.4%		55.6%		
理 学 部	2,225	1,240	589	176	62	158	326	190	111	17		8
	検 27	検 7	検 7	検 6	検 1	検 6	検 1	検 1				
	他 4	他 4					他 2	他 2				
医 学 部	883	362	151	85	35	250	102	50	30	11	4	7
	検 7		検 2	検 2	検 1	検 2						
		41.0%		59.0%				49.0%		51.0%		
薬 学 部	339	183	95	28	7	26	83	42	37	2	2	
	検 4	検 2				検 2						
		54.0%		46.0%				50.6%		49.4%		
工 学 部	4,077	2,343	1,388	209	63	74	1,050	563	432	45	4	6
	検 14	検 4	検 5	検 3		検 2	検 1		検 1			
	他 2		他 2									
農 学 部	1,498	764	514	118	28	74	320	164	131	14	3	8
	検 11	検 3	検 1	検 1	検 2	検 4	検 2				検 1	検 1
	専 1			専 1								
合 計	14,291	7,800	4,418	985	290	798	2,926	1,537	1,177	146	21	45
	検 125	検 30	検 30	検 19	検 12	検 34	検 4		検 2		検 1	検 1
	他 6	他 4	他 2				他 2	他 2				
		54.6%		45.4%				52.5%		47.5%		

〔外国学校出身者のための選考にかかる入学資格取得年別調（外数）〕

学 部	志 願 者						入 学 者					
	総 数	現 役 8.3卒	浪 7.3卒	6.3卒	5.3卒	4.3以前卒	総 数	現 役 8.3卒	浪 7.3卒	6.3卒	5.3卒	4.3以前卒
法 学 部	51	49	2				17	16	1			
	他 51	他 49	他 2				他 17	他 16	他 1			
		96.1%		3.9%				94.1%		5.9%		
経済学部	56	54	2				7	7				
	他 56	他 54	他 2				他 7	他 7				
		96.4%		3.6%				100.0%				

## 訃報

## 小林恵之助 名誉教授



本学名誉教授 小林恵之助先生は、3月18日逝去された。享年82。

先生は、昭和10年京都帝国大学理学部動物学科を卒業され、同大学化学研究所研究員、講師、助教授を経て昭和40年同大学化学研究所教授に就任、高分子結晶学部門を担当された。昭和52年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

先生は、電子顕微鏡を用いた高分子結晶に関する研究、中でも「高分子鎖の折りたたみ構造」の発見など先駆的な研究をされ、優れた研究業績を残されて、高分子構造の研究に大きな貢献をされた。

また、高分子固体の微細構造の解明のため、昭和18年我が国で最初の超薄切片技法を開発し、昭和33年度瀬藤賞（日本電子顕微鏡学会賞）を受賞、その後電子顕微鏡の開発研究に力を注がれ、昭和32年世界最初の実用的超高压電子顕微鏡を化学研究所に設置し、昭和37年度には「超高压電子顕微鏡の開発」により、再び瀬藤賞を受賞された。昭和49年には、原子レベルの分解能を誇る世界一の超高分解能電子顕微鏡の設置に尽力された。

さらに先生は、昭和24年、日本電子顕微鏡学会の設立に尽力され、昭和46年度には同学会長を務められた。これら一連の研究活動、学会活動により、昭和61年4月勲三等旭日中綬章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(化学研究所)

## 浅沼 萬里 経済学部教授



経済学部教授 浅沼萬里先生は、3月23日逝去された。享年60。

先生は、昭和36年京都大学経済学部を卒業、引き続き同大学院で学ばれた後、同経済学部助手、助教授を経て昭和59年教授に就任、同63年から平成2年同評議員、同5年4月から同7年3月まで経済学部長を務められ、本学の管理運営に多大の貢献をされた。

先生は徹底した実証主義に立脚し、国内外での詳細な聞き取り調査に基づき、企業組織及び企業間取引の制度上の仕組みを解明することを研究目標とされた。さらに、理論研究の面でも、自らの実証研究の成果に依拠して、取引費用の経済学や契約理論等の枠組みの拡張にも努め、日本の企業組織と企業間取引の論理を理論と実証の両面から厳密に解明された。なかでも最大の貢献は、自動車産業のメーカーとサプライヤーの関係についての一連の研究である。代表的著作として、“Interfirm Relationships in the Japanese Automobile Industry”がある。

また、先生は学部及び大学院学生の教育・研究指導にも熱心に取り組まれ、多数の優秀な後進を育成された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(経済学部)

## 中岡 弘子 医学部附属病院総務課庶務掛主任

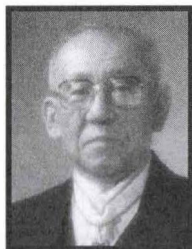
医学部附属病院総務課庶務掛主任 中岡弘子氏は、3月25日逝去された。享年60。

同氏は、昭和41年本学医学部附属病院に就職以来、30年余りの永きにわたり庶務関係業務に尽力された。また、平成2年には、京都大学永年勤続者表彰（20年勤続）を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(医学部附属病院)



木島 正夫 名誉教授

本学名誉教授 木島正夫先生は、3月27日逝去された。享年82。

先生は昭和11年京都薬学専門学校卒業、京都帝国大学助手、京都薬学専門学校教授、京都薬科大学教授を歴任された後、京都大学薬学部教授に就任、生薬学講座を担当された。昭和52年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、京都大学薬学部附属薬用植物園長、京都大学評議員等を歴任され、大学の管理運営に貢献された。

本学退官後は、昭和52年10月から平成2年3月ま

で北海道薬科大学教授、この間昭和59年4月より平成2年3月まで北海道薬科大学長を務められた。

先生は、生薬学において約40年にわたり教育及び研究に専念された。特に生薬の基原同定に関する研究分野を確立し、正倉院薬物の研究、東南アジア生薬の研究に優れた研究業績を残された。

また、日本生薬学会長として、あるいは大学設置審議会、中央薬事審議会などにおいて長年活躍され、我が国の生薬学領域、薬学教育及び薬事行政に貢献された。これら一連の功績により、昭和52年11月に紫綬褒賞、昭和60年4月に勲三等旭日中綬章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(薬学部)

水津 一郎 名誉教授

本学名誉教授 水津一郎先生は、4月8日逝去された。享年73。

先生は、昭和21年京都帝国大学文学部を卒業、大阪市立大学法文学部講師、文学部助教授を経て、昭和34年4月京都大学文学部助教授に就任、同46年教授に昇任、地理学講座を担当された。昭和61年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

その間、昭和55年1月から評議員として、また昭和56年1月から同58年1月まで文学部長として大学の管理運営に貢献された。

退官後は昭和63年6月まで奈良大学文学部教授、

昭和63年7月から平成6年3月まで奈良大学長を務められた。

先生の専門は、社会地理学、歴史地理学、地理学史、位相地理学の諸分野に及んでおり、近代地理学を確立したドイツ地理学を基礎として、景観論と機能論を総合した地域論を展開され、また古典的な地理学と20世紀後半に台頭した計量地理学の止揚をめざした位相地理学を提唱された。主な著書に『社会地理学の基本問題』『社会集団の生活空間』『ヨーロッパの村落研究』『地域の論理』『近代地理学の開拓者たち』『地域の構造』などがある。

学界においては通算3期にわたって人文地理学会会長を務め、また史学研究会理事長、日本学術会議会員に選ばれるなど学界の発展に貢献された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院文学研究科)

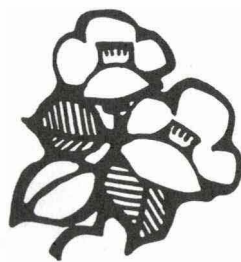




## 日誌

1996年3月1日～3月31日

- 3月1日 ケニヤ 教育省 Simon S. LESRIMA 事務次官他3名来学, 総長及び関係教官と懇談
- 4日 フランス共和国 ロベール・シューマン大学(ストラスブール第三大学) Pierre Ortscheidt 学長他1名来学, 総長及び関係教官と懇談
- 5日 評議会  
✧ 後援会助成事業選考委員会  
✧ 大学院審議会  
✧ カナダ・ケベック州大学学長校長協議会 Alain Caille 会長他1名来学, 総長及び関係教官と懇談
- 6日 国際交流委員会  
✧ 国際交流会館委員会
- 8日 放射性同位元素等管理委員会
- 12日 環境保全委員会
- 13日 入学者選抜学力試験(後期日程試験)(14日まで)
- 18日 附属図書館商議会
- 21日 新キャンパス委員会
- 22日 教育課程委員会
- 25日 修士学位授与式  
✧ 博士学位授与式
- 26日 卒業式  
✧ 評議会  
✧ 中華人民共和国 社会科学院 姜 漢章 外事局長他9名来学, 総長及び関係教官と懇談
- 27日 スウェーデン・ルント大学 Boel Flodgren 副学長他6名来学, 総長及び関係教官と懇談
- 28日 ドイツ連邦共和国 ミュンヘン大学 Andreas Heldrich 学長他1名来学, 総長及び関係教官と懇談



## お知らせ

## 平成8年度創立記念行事音楽会の開催

本学では、6月18日の創立記念日を祝し、下記の音楽会を開催いたします。本学学生・教職員の来聴を歓迎します。

## 記

日 時	平成8年6月12日(水) 午後6時30分開演
会 場	京都コンサートホール 左京区下鴨半木町1番地の26
名 称	90ストップの巨大パイプオルガンの醍醐味
演 奏 者	吉田 文 (パイプオルガン)
	吉田 徳子 (                      )

## プログラム

J. S. バ ッ ハ：トッカータとフーガ ニ短調 BWV. 565  
 ラ ン グ レ イ：ダブル・ファンタジー (連弾：第2オルガン 吉田徳子)  
 シュトックマイヤー：ミロの絵に寄せるインテルメッツォ  
 フランツ・リスト：「B-A-C-H」による前奏曲とフーガ

## 休 憩

ワ グ ナ ー：“ニュルンベルグの名歌手”序曲  
 エ ー ベ ン：『ファウスト』より“学生の歌”  
 ミ ヒ ユ ル：ペダル・ソロによる舞曲集  
 アンタルフィー＝シロス：黒人霊歌によるスケッチ

## (演奏者略歴)

## 吉田 文

名古屋生まれ。1987年中学校卒業と同時に単身渡独、パーダーボーン大聖堂オルガニスト：ヘルムート・ペータース氏に師事して本格的にオルガンを学びはじめた。

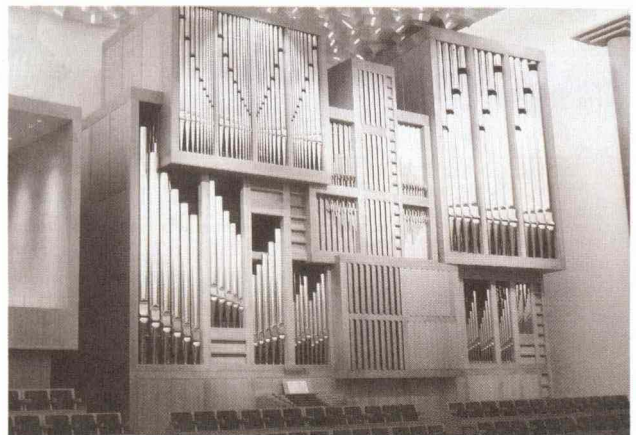
1989年、17歳でドイツ国立ケルン音楽大学に入学。1994年同大学カトリック教会音楽科を卒業《Kantorin》(A級教会音楽家)の称号を受け、引続き同大学オルガン科に入学し研鑽を続けると同時に、ケルン市聖カタリーナ教会オルガニストを務めている。

この間1989年4月には由緒ある「パーダーボーン大聖堂オルガン・ツィクルス」に17歳で抜擢されてメシアンの“主の降誕”全曲を演奏、絶賛を博した。また1991年秋には、母・吉田徳子との「オルガン連弾演奏会」でドイツ各地に演奏旅行して話題となった。1996年2月にデュオを行い、5月25日のコンサート及び6月17日プラハ放送交響楽団東京公演でのサン＝サーンス協演を予定していて、毎回オルガン音楽の普及を願って意欲的なプログラムを紹介している。

## 吉田 徳子

コンサート・オルガニストとして、数度のドイツ演奏旅行、数々のリサイタルや、名古屋フィルハーモニー交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、関西フィルをはじめ多くのオーケストラ、合唱団との協演を精力的にこなしている。名古屋聖霊短期大学助教授、カトリック南山教会オルガニスト。

(学生部)



入場は無料です。

学生証又は職員証を持参して下さい。

定員は1,000名先着順とします。